



「性と健康を考える女性専門家の会」勉強会 日本の乳がん検診～ピンクリボン運動の立場から

講師 高木 富美子（認定 NPO 法人乳房健康研究会 常務理事）

日時：2015 年 3 月 28 日（土）18 時～20 時

会場：朝日エル会議室 東京都中央区築地 2-12-10
築地MFビル 26 号館 5 階

参加費：会員 700 円 非会員 1,200 円 学生 500 円

参加申し込み：お名前、ご所属、会員／非会員 ご連絡先を明記の上
「性と健康を考える女性専門家の会」事務局まで
メールでお申込ください。pwesh@ellesnet.co.jp

1997 年の久道班の報告を受ける形で 2000 年 4 月老健 65 号の通達が出され、乳がん検診に科学的根拠のある検査法マンモグラフィが導入されました。時を同じくして発足したのが乳房健康研究会です。

従来、日本女性には乳がんが少ないといわれてきましたが、当時すでに乳がんは壮年期（30 歳～64 歳）女性のがん死亡のトップでした。現在、年間罹患数 7 万 6 千人（2010 年）、死亡数は 1 万 3 千人（2013 年）を数えるまでに増加しています。この間検診受診率は、40%台まで上昇しています。しかしながら先進国が 70～80%であるのに比して未だ低率といわざるを得ない状況です。

今回の勉強会では、ピンクリボン団体が乳がん検診受診率を上昇させるために行ってきた方策についてこれまでの活動の成果と課題を示し、さらに今後の方向性としてピンクリボンアドバイザー制度の活用及び法定検診への道筋について検討いたします。

一方、検査方法に関する新しい動きにも触れたいと思います。マンモグラフィと超音波を併用した検診とマンモグラフィ単独検診を比較した大規模比較試験（J スタート）のデータが間もなく公表されます。この知見をもとに超音波検査をいかに対策型検診に導入するか。あるいはハイリスクグループに対する MRI 検査の扱いをどうするか。そしてピンクリボン運動はこうした動きにどう向き合うかといった点です。

ところで、乳房健康研究会は性と健康を考える女性専門家の会を「母」として生まれた（「父」は別にいることにしてください）経緯があります。久しぶりの実家に帰って、みなさまの叱咤激励を受けたいと願っております。

【講師プロフィール】

認定 NPO 法人乳房健康研究会常務理事、共立女子短期大学非常勤講師。

津田塾大学学芸学部英文学科卒業。

1986 年朝日エルの設立に参加し、化粧品や健康関連の商品開発、調査、マーケティングプランニングに従事する。2000 年の乳房健康研究会の設立にあわせてピンクリボン運動に携わり、2003 年同会の NPO 法人化にともない理事就任。2013 年 4 月より現職。